



DV加害者の心理状態
 県が実施した調査によると、DVのきっかけとしては、「イライラがつつっていた」、「パートナーにイライラさせられた」、「言うことを聞こうとしないので行動でわからせようとした」などがあげられており、およそ五人に三人は「イライラ」や被害者を支配しようという気持ちや暴力等の加害行為の原因となっています。

加害行為を行ってしまったことについては、「自分が悪かったと思う」、「その後は同じことは起こさない」と答える人が最も多いものの、「二度とやらないようにしたい」という気持ちはあるが、その後も同じことをしてしまうという人もおり、加害行為を自覚し、改善しようという気持ちがあっても、DVを自己解決することは難しい場合もあるようです。

知らないうちに DVの加害者になっ ちゃっていませんか

変わりたい あなたの電話 待ってます

近年、配偶者等からの暴力、いわゆるドメスティック・バイオレンス(以下「DV」という。)が大きな社会問題となっていることから、被害者を対象としたさまざまな支援が行われています。

一方、DVの加害者に対しては、自分の行為の責任を認識し、暴力的な態度をやめるよう働きかける必要があります。

そのため、県では「DV加害者更生相談室」を設置しています。

DV加害者更生相談室

(更生保護法人 沖縄県更生保護会内)

- 相談日 毎週水曜日(年末年始は除く)
- 時間 午後5時～9時

Tel 098-884-1018

相談は匿名でも可能です。秘密は厳守します。

加害者対策の必要性

また、いずれの加害者も「(加害者の)話を聞いてくれる存在は重要」と相談窓口の設置を希望しています。

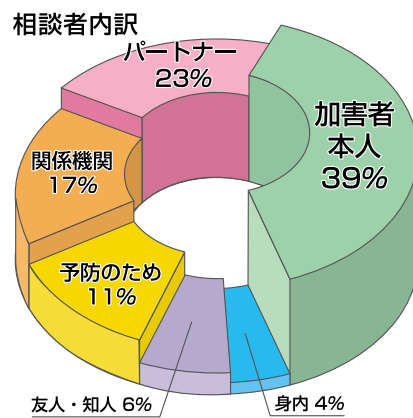
DVの防止・根絶のためには、DVに関する広報・啓発活動を推進するほかに、加害者本人に働きかけることが重要です。

加害者が「自分の行為の責任を認識し、再び暴力を振るわない」ため

相談実績

平成十八年十一月の窓口開設から平成十九年三月までの五カ月間で、計百十件の相談がありました。性別では、男性からの相談が多く、全体の約七〇%となっています。

相談の内訳としては、加害者本人が自己変革、更正のため相談してることが最も多く、「大声でど



DV加害者の中には「自分の行為はDVだ」ということに気がついていない人もいます。加害者本人にとっては、何でもない行動が、実は相手を恐怖に陥れている可能性もあるのです。誰でも、いつの間にかDVの加害者となっているかもしれません。

自らの行為に気付く、「変わりたい」と決意した方、少しでも心当たりのある方は、ぜひ相談室をご利用ください。

DVとは?

DVとは、夫や恋人・パートナーなど、親密な関係にある相手にふるう暴力のことをいいます。殴る、蹴るなどの身体的暴力のほか、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力、社会的暴力、子供を利用した暴力などがあります。

身体的暴力

- 平手で打つ、げんこつで殴る。
- 身体を傷付ける可能性のある物で殴る。
- 噛む、髪を引っ張る、足で蹴る。
- 首を絞める。引きずりまわす。
- 物を投げつける。
- 刃物などの凶器を身体に突きつける。

精神的暴力

- 大声で怒鳴る。
- 「誰のおかげで食べられるんだ」など見下して言う。
- 殴るそぶりや物を投げるふりをして脅かす。
- 何を言っても無視する。
- 人の前でバカにしたり、命令口調でものを言ったりする。

経済的暴力

- 妻の労働を嫌がる。
- 家事に支障のないパートナーしかさせない。
- 生活費を入れない。
- お金の使途をチェックする。
- 大きな買い物の決定権を渡さない。

性的暴力

- 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる。
- 嫌がっているのに性行為を強要する。
- 中絶を強要する。
- 避妊に協力しない。

社会的暴力

- 両親や親戚、友人との付き合いを制限し、社会的に孤立させる。
- 手紙や電話を監視する。
- 仕事を辞めさせる。

子どもを利用した暴力

- 子どもに暴力を見せる。
- 子どもに自分の言いたいことを伝えさせる。
- 子どもを危険な目にあわせる。
- 女性から子どもを取り上げる。
- 子どもに危害を加えると言って脅す。

